

# JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	関西支部	(2) 記載者氏名:	重廣 恒夫	会員番号:	7931	事務局整理記入欄	関西 - 43
分水嶺区分	W289志戸坂峠～W292右手峠	(3) 山行日:	2005年	5月	3日	(4) 天候	晴

(5) 参加者氏名および会員番号				サポート要員氏名および会員番号			
山内幸子	10380						
久保和恵	13459						
山本一夫	13887						
重廣恒夫	7931						
計				計			
4名				名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	江戸時代には参勤交代の要道であった志戸坂峠から、因州・作州の脇往還であった右手峠までの混合林の稜線												
アプローチ:	中国自動車道佐用ICより国道373に入り、志戸坂トンネル手前で志戸坂隧道に向かう旧道の東屋より												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	東屋	坂根	134	19	58.7	35	12	25.7	468.0		6:42		
分水嶺到達点W289	志戸坂峠	坂根	134	19	48.0	35	12	34.4	580.3	7:42	7:50	B-1	
W290	P910.9	坂根	134	19	13.0	35	12	57.0	913.1	9:05	9:20	B-2	9-
W291	P974.2	坂根	134	17	43.6	35	12	1.7	980.9	11:59	12:15	B-2	
	P1056	坂根	134	16	58.5	35	11	52.8	1,058.8	13:41	13:50	B-2	8-
	石楠花平	坂根	134	16	57.4	35	11	53.0	1,063.3	13:53	14:15	B-1	9-
	右手峠南500m											B-1	
分水嶺離別点W292	右手峠												
歩行終了点	右手峠		134	16	5.1	35	12	29.4	646.1	16:51			
総歩行時間(休憩時間を除く):												8時間11分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
W290	志戸坂(しどざか)	4	測定せず	良好	
W291	深山(ふかやま)	4	測定せず	良好	背丈以上の笹藪の中に埋没しており、切り開いて探し出す
	高岳(こうだけ)	4	測定せず	良好	藪に埋もれていた
	右手峠(うでとうげ)	4	測定せず	良好	

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

木地山(907.9m)の北方750mの分水嶺との合流点東500m地点(1056m地点)に、1987年に埋標された4等三角点(点名:高岳 = こうだけ) 経度E 134度16分58秒、緯度N 35度11分52秒、標高1055.03mがある。周辺には倒木が多く三角点も藪に埋もれていた。 高岳 の稜線西には電波反射板が施設されており、管理道が土の河内集落に通じている。 右手峠から南に植林地を約150m登ると、分水嶺の東に1987年に埋標された4等三角点(点名:右手峠 = うでとうげ) 経度E 134度16分6秒、緯度N 35度12分24秒、標高680.40mがある。(2005:5:4確認)
---

(9) 水および植生に関連した特記事項

志戸坂峠から志戸坂 までは檜の植林地であり、踏み跡が明瞭についている。その後の稜線は概ね雑木の自然林であるが、南斜面は檜の植林が多い。 高岳 と電波反射板の稜線中間北面には石楠花の高木があり、ちょうど満開の時期であった。
---

(10) その他の特記事項

--

(11) 写真の添付:( 有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: